

GE-1-i-03	A コミュニケーション概論	第1学年	後期 選択必修	1.5単位
担当者	小松 栄一			
一般目標 (GIO)	コミュニケーションをめぐる様々な理論を理解し、メディアの影響力や人間関係のあり方など、社会生活のなかで体験する具体的問題を理論的に反省・検討できるようになることが目標である。			
到達目標 (SBOs)	以下の諸点について理解を深め、自分自身の問題の解決に役立てられるようにしたい。 【メディア】 1. メディアにはそれぞれ独自の様式があり、様式と内容は切り離せない。 2. メディアは事実の伝達とは別に「リアリティ」を作り上げている。 【対人コミュニケーション】 1. 人は、自分一人ならするはずのないことを、しばしば他人に影響されて（自分自身の判断や良識を棚上げして）やってしまう。 2. 上記の点は社会心理学の様々な実験研究によって明らかにされている。 【日常の相互行為】 1. 日常の自然なコミュニケーションを実現するための暗黙のルールが存在する。 2. 私たちはふだんのコミュニケーションのなかで（自分でも気づかないうちに）特定のスタイルや戦略を採用し、その結果、社会生活上の様々な困難に直面している。 3. 上記のような困難は自分自身のコミュニケーションのスタイルを分析的に自覚することで改善可能である。			
受講心得・準備学習等	今回のテーマについてインターネットや用語辞典で調べておくこと。			
事後学習・復習等	授業で紹介した理論を使って、身近な経験や時事的トピックを説明してみる。			
オフィスアワー	講義の前後に教室にて質問を受け付ける。			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義形式で行う。
回	項目	内容
1	イントロダクション	コミュニケーションの概念について
2	メディア論(1)	メディア・リテラシー、マクルーハンの理論
3	メディア論(2)	メディア効果論の変遷、マスコミと世論
4	メディア論(3)	疑似環境、疑似イベント、現実の社会的構成
5	メディア論(4)	記号論の考え方、広告と消費社会の神話
6	対人関係(1)	集団圧力と同調、権威への服従
7	対人関係(2)	スタンフォード刑務所実験
8	対人関係(3)	説得と態度変化、心理的リアクタンス理論
9	対人関係(4)	リーダーシップの類型、集団思考
10	相互行為の分析(1)	言語行為の理論、話を聴くという行為
11	相互行為の分析(2)	非言語コミュニケーション
12	相互行為の分析(3)	囚人のジレンマとゲーム理論
13	相互行為の分析(4)	交流分析とエゴグラム
14	まとめのテスト	

成績評価の方法	まとめのテストの結果ならびに平常点（主に授業内の提出物）により評価する。
成績評価の基準	まとめのテストの結果が80%、平常点が20%。合計点が60%以上を合格とする。
教科書	使用しない(プリントを配布する)。
参考書など	授業のなかで紹介する。